

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
愛知ペット専門学校	平成20年2月22日	牧 良	〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鯉池246-1 (電話) 0564-57-8139																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 アイビシー学園	平成20年2月22日	牧 良	〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鯉池246-1 (電話) 0564-57-8139																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	ドッグトレーナー科	平成21年文部科学省 告示第86号	—																							
学科の目的	ドッグトレーナー科は、ペット産業等の社会に広く貢献しうる有能な人材として、主に犬の訓練業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1855時間	255時間	75時間	1525時間	—	—																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
40人	30人	0人	1人	5人	6人																						
学期制度	■2学期制: 前期:4月1日～9月30日 後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果や出席時数等の履修状況等を総合的に勘案して行う																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:7月21日～9月3日 ■冬季:12月15日～1月8日 ■学年末:3月16日～3月31日		卒業・進級 条件	2年の修業年限以上の在学及び開設する授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 主に担任による個人面談(電話連絡および保護者面談等含む)		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 毎年テレビ愛知主催のふれあいイベントに協力、本年度も学生の研修等の場として参加を予定している ■サークル活動: 無																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ペット業界 ■就職指導内容 就職セミナーおよび担任による個人指導 ■卒業生数 8 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 7 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 87.5 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本動物専門学校協会 ドッグトレーナー1級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人 基礎単位</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>家庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>ペットシッター士資格</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 日本動物専門学校協会主催 ドッグトレーニング大会入賞				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	日本動物専門学校協会 ドッグトレーナー1級	③	8人	5人	損害保険募集人 基礎単位	③	8人	7人	家庭動物管理士3級	③	8人	6人	ペットシッター士資格	③	8人	8人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
日本動物専門学校協会 ドッグトレーナー1級	③	8人	5人																								
損害保険募集人 基礎単位	③	8人	7人																								
家庭動物管理士3級	③	8人	6人																								
ペットシッター士資格	③	8人	8人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 3 名 平成29年4月1日時点において、在学者33名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者24名(平成30年3月31日卒業生を含む) ※1年次前期末で転科を認める場合があり、上記年度は6名が転出した。 ■中途退学の主な理由 学校生活不適應、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 随時面談を実施、オリエンテーション又はレクリエーション等の開催		■中退率 12 %																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0名(申請者無)																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	http://aichipet.com/?p=2032																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年ペット産業を取り巻く分野において、めまぐるしく変化し、且つ進化し続ける市場を背景に、学校教育法(第124条)における「専修学校の目的」に鑑み、その専門分野において市場が求める実践的な知識・技術・技能を十分に認知するべく本学科が目指す職業教育に関連した企業と組織的に連携して必要十分な授業科目を創設していくこととし、またその実施に当たっては、当該専門課程の教育にふさわしい授業方法への改善・工夫を行った上で教育課程を編成することとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

ドッグトレーナー科が目指す職業教育における関連事業の企業と連携し、同企業より当該過程に関連する専門分野に精通した各役職者等を構成員とした「教育課程編成委員会」を学校内に組織し、委員会の方針に沿って科長が編成を行い、学校長の許可を得てから当年度の実施及び履行がなされるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
脇田 亮治	一般社団法人全国ペット協会 専務理事	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	①
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	③
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部长	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	③
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理次長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	③
山本 順子	株式会社アイピーシー ペットサロンdoggies店長	平成30年5月16日～平成31年3月31日(1年)	③
船本 佳実	株式会社アイピーシー わんわん動物園副主任	平成30年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	
細川 綾子	愛知ペット専門学校 ペトリマー科科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	
芳賀 美咲	愛知ペット専門学校 動物看護科科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	
東 晃司	愛知ペット専門学校 ペットアドバイザー科科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年度内で8月と3月の2回開催する

(開催日時)

第1回 平成30年8月23日 14:00～15:00

第2回 平成30年3月28日 14:00～15:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ①資格合格率や就職希望先に合わせた資格など充実しており、このまま継続すればいいと企業等の委員から意見を受け、平成30年度も4つ以上の資格取得を目標とする
- ②ビジネスマナー系の授業導入を検討し、学生の社会人基礎力の向上を目指す

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット産業界が求める知識及び技能を的確に反映すると共に、社会人としての基礎能力の向上を重視した教育を行う為、積極的に企業等へ学習活動の協力を求め、より実践的な専門性の確保を目的として学習機会(企業内実習、企業参加の学内実習活動等)を設定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業と学校の打ち合わせ等により企業やペット業界のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、企業からの派遣講師による授業の実施または企業等における実習等を実施する。学生はその日に受けた指導内容、自己評価等を実習日誌等に記載、定期的に学校の教員が確認し、必要に応じて研修や試験等を実施する。さらに企業と事前に打ち合わせた基準あるいは評価に基づき、学校の教員が成績評価及び単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	株式会社アイピーシー
訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス	基本服従訓練から遠隔操作など	株式会社アイピーシー
訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス	まわれ、股ぐり歩行などの一芸項目を実際に教えていき、ドッグダンスの構成からショーテクニックを実践する	株式会社アイピーシー
専科選択実習	しつけ教室 等	株式会社アイピーシー
能力開発実習	災害救助犬育成、介助犬育成など	株式会社アイピーシー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。例えば、本学科においては犬のしつけ訓練に関わる最新の行動学的知識や補助用品などの商品知識、また探知犬・補助犬などの使役犬に関わる知識等を得るため、積極的に勉強会や研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

株式会社アイピーシー動物園事業部ペットサービス課と連携し、「いぬの学校」「わんわんイベント」等の実務研修を行った。

研修名「麻薬探知犬管理センター見学講習会」(連携企業等:名古屋税関 監視部 麻薬探知犬管理室)

期間:平成29年6月14日(水) 対象:担当教職員

内容:麻薬探知犬の実情を理解し、デモンストレーションなどを実際に見て、実習に役立てる

研修名「ふれあい活動」(連携企業等:愛知県岡崎盲学校)

期間:平成29年10月11日(水) 対象:担当教職員

内容:幼稚部、小学部のふれあい活動実地

研修名「ドッグ・ショー開催」(連携企業等:株式会社アイピーシー動物園事業部ペットサービス課)

期間:平成29年10月31日(水)、平成30年3月1日(水) 対象:担当職員

内容:パフォーマンス技術の向上およびショー構成のスキルアップおよび授業実施に対するアドバイスを受ける

研修名「OJT型授業開催について」(連携企業等:株式会社アイピーシー動物園事業部ペットサービス課)

期間:平成29年11月2日(水) 対象:担当職員

内容:しつけ教室の企画、営業トークなどのノウハウの取得

研修名「しつけ教室企画営業プレゼンテーション」(連携企業等:株式会社アイピーシー動物園事業部ペットサービス課)

期間:平成29年11月14日(水)、平成29年11月28日(水) 対象:担当職員

内容:しつけ教室運営や顧客ニーズの最新情報および学生の指導方法および実施後の指導評価、アドバイスなどを受ける

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、教育者としての視点を改め、再認識することを目的とし、年間を通し10回、株式会社アイピーシー事業・企画開発部部長を招き、ビジネスDVDを利用した講習を受けた。その後、教科指導やクラス運営の中で、学生への指導助言に役立った。

研修名「報連相の基本」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年5月22日(火) 対象:全教職員

内容:報連相の目的、飛び越し指示があったとき、上司によって必要な情報・対応のし方が違うことを理解する

研修名「ビジネス電話」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年6月26日(火) 対象:全教職員

内容:電話の受け方、かけ方など学校の印象をよくする電話の基本。新卒者の気になる点と今後の学生指導の強化内容

研修名「新型うつ」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年7月24日(火) 対象:全教職員

内容:新型うつの特徴と学生への対応

研修名「私たちの地震対策」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年8月28日(火) 対象:全教職員

内容:地震発生時の学生避難誘導、帰宅指示など何に注意すべきかとマニュアル作成のポイント

研修名「ソーシャルメディアのリスク」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年9月25日(火) 対象:全教職員

内容:ソーシャルメディアのリスク対策とポイント

研修名「職場のメンタルヘルスケア」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年10月17日(火) 対象:全教職員

内容:うつのサインとうつ症状。登校してきた学生への対応とクラス全体への指導ポイント

研修名「社会人のやっていいこと、悪いこと」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年11月27日(火) 対象:全教職員

内容:社会人マナー、仕事への取組み方、社内外でのモラル。在校生の指導や卒業生への対応のし方

研修名「プレゼンテーションの基礎」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成29年12月25日(火) 対象:全教職員

内容:プレゼンの基本を踏まえ、ゼミナール、授業用パワーポイントの作成ポイント

研修名「クレーム電話」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成30年1月29日(火) 対象:全教職員

内容:クレームとの向き合い方、折り返しの注意点など。報連相の徹底と記録方法

研修名「顧客満足度アップ」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成30年3月27日(火) 対象:全教職員

内容:CSの基礎知識、CSの進め方、満足度を上げるには

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

(株)アイピーシー関係各位から求める人材像についてヒアリングを行い、必要な勉強会及び研修を計画、実施する。

研修名「麻薬探知犬管理センター見学講習会」(連携企業等:名古屋税関 監視部 麻薬探知犬管理室)

期間:平成30年6月6日(水) 対象:担当教職員

内容:麻薬探知犬の実情を理解し、デモンストレーションなどを実際に見て、実習に役立てる

研修名「ふれあい活動」(連携企業等:愛知県岡崎盲学校)

期間:平成30年10月31日(水) 予定 対象:担当教職員

内容:幼稚部、小学部のふれあい活動実地

研修名「ドッグ・ショー開催」(連携企業等:株式会社アイピーシー動物園事業部ペットサービス課)

期間:平成30年11月1日(水)、平成31年2月27日(水) 予定 対象:担当職員

内容:パフォーマンス技術の向上およびショー構成のスキルアップおよび授業実施に対するアドバイスを受ける

研修名「しつけ教室企画立案」(連携企業等:株式会社アイピーシー動物園事業部ペットサービス課)

期間:平成30年11月に3日間、平成30年12月に2日間を予定 対象:担当職員

内容:しつけ教室の企画、営業トークなどのノウハウの取得。教室運営や顧客ニーズの最新情報および学生の指導方法および実施後の指導評価、アドバイスなどを受ける

②指導力の修得・向上のための研修等

・全教職員を対象に年10回、職業教育にあたる教員の資質向上を目的として、連携企業より講師を招いた研修を継続する。平成30年度の予定は以下の通りである。

研修名「職員校内研修会」(連携企業等:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間:平成30年5月～平成31年3月(月1回程度) 対象:全教職員

内容:職業教育に当たる教員の資質向上を目的として、連携企業より講師を招いた研修を行う。事前に教員アンケートをとり、その時に必要性を感じる内容をテーマに開催する。

平成30年5月22日「コミュニケーションカアップ ヒアリング」

平成30年6月26日「5S徹底のノウハウ」

平成30年7月24日「社外文書の書き方」

平成30年8月28日「防災管理と避難訓練」

平成30年9月25日「企画・プレゼンに活かす図解表現の技術」

平成30年10月16日「デジタル・プレゼンテーション成功への技術」

平成30年11月27日「リーダーシップ」

平成30年12月以降内容未定

・学生指導及び支援等の指導力向上に役立つ講演会・セミナーを案内する

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当該専門課程の教育にふさわしい教育活動が実施されたことに対する成果を検証し、必要な改善を速やかに行うことで教育水準の向上を図ることが重要である。また、学校教育活動に対しペット産業に関わる企業や保護者などと連携し意見を積極的に汲み取ることで相互理解の促進を図り、教育活動の改善と発展を推し進める。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか 等
(2)学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか 等
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 等
(4)学修成果	・就職率の向上は図られているか 等
(5)学生支援	・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 等
(6)教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 等
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか 等
(8)財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 等
(9)法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 等
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学科の特性や専門性を活かしたボランティア活動はとともよい試みとして評価を得て、活動先の趣旨を踏まえふれあい内容を改善し、それに合わせた犬の訓練を授業内に取り組みを検討する。また、学校施設周囲の道路・歩道のゴミ収集・路面清掃、関係施設周辺では岡崎市と連携した“イエローカード作戦”を通じた路上排泄犬糞の放置を防止するための活動も継続していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	企業等委員
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	企業等委員
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理部次長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(6年)	企業等委員
山本 順子	株式会社アイピーシー ペットサロンdoggies店長	平成30年5月16日～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
船本 佳実	株式会社アイピーシー わんわん動物園副主任	平成30年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 平成30年8月2日公開

http://aichipet.com/wp-content/uploads/2018/08/hvouka_h.30.4.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当該専門課程の教育活動が実施されたことに対する活動及び成果について連携企業及び保護者や地域住民に対しわかりやすく示し、情報提供を行うことで学校としての説明責任を果たすとともに相互の理解を深め、連携の促進を図る。また、情報の共有による連携協力の促進を通じて、学校・企業・家庭それぞれの意見が反映され、教育力が高められることを期待する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・所在地、連絡先、校長名 等
(2)各学科等の教育	・各学科の定員数、入学者数、在 student 数 等
(3)教職員	・教職員数(職名別) 等
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 等
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 等
(6)学生の生活支援	・学生相談に関する体制 等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) 等
(8)学校の財務	・貸借対照表、収支計算書 等
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

<http://aichipet.com/?p=3331>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーナー科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ペット一般教養Ⅰ	就職セミナー（業界の就活事情、社会人としての心構え、履歴書の書き方、自己分析の方法等）	1後	15	1	○			○		○		
○			特別活動Ⅰ	スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力を養う。	1通	60	2			○	○	△		○	
○			共通基礎	犬との接し方や犬具等道具の扱い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な習性や生理等について学ぶ。	1前	60	2	△		○	○	△		○	
○			各科実習	所属する部科に関わらず、ペット美容、しつけ訓練、動物看護、飼育繁殖の基礎を学ぶ。	1前	60	2	△		○	△	○		○	
○			動物形態機能学Ⅰ	主に犬猫を中心に動物の体の構造、筋骨格系等の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			病原体・衛生管理	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	1通	30	2	○			○			○	
○			動物健康管理	健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導に活かす。	1前	15	1	○			○			○	
○			動物医療関連法規Ⅰ	動物愛護及び管理に関する法律における責務と規制事項を理解し、動物福祉と人との共生の観点から関連法を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			動物行動学Ⅰ	犬猫の基本的な行動様式と学習方法について学ぶ。	1前	45	3	○			○				○
○			飼養管理学Ⅰ	伴侶動物となり得るエキゾチックアニマルの生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解する。	1後	15	1	○			○			○	
○			専科実習	犬の訓練に必要な人の歩き方、「賞罰」の与え方等訓練士としての基本動作を実践して習得する。	1通	270	9	△		○	△	○		○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーナー科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	1通	30	1			○	○		○	○	
○			飼育管理実習Ⅰ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	1通	90	3			○	○		○	○	
○			動物飼育実習Ⅰ	わんわん動物園から生体提供を受けた担当犬に対する衛生管理を動物園業務と直結した指導教育に取り組む。	1前	45	1			○	○		○	○	
○			動物飼育実習Ⅱ	今の時代にあった展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常のケア等を通じて生体を扱う基礎力を養う。	1前	90	2			○	○		○	○	
○			動物飼育実習Ⅲ	1頭1頭の担当犬に対し、日常のケア、体重コントロール、備品管理の3項目に対し、実務レベルでの管理能力育成を目指す。	1後	90	2			○	○		○	○	
○			ペット一般教養Ⅱ	就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説	2通	30	2	○			○		○		
○			特別活動Ⅱ	主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。	2通	60	2			○	○	△	○		
○			ゼミナール	卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。	2通	30	2	△	○		○		○		
○			課題研究	卒業研究及び卒業論文の作成	2通	45	3	△	○		○		○		
○			高等訓練学	臭気項目、介助項目などの使役犬の訓練内容を学ぶ	2通	15	1	○		△	○		○		
○			専科選択科目	犬の問題行動に対する知識を深め、顧客に対してのカウンセリング、アドバイス等の話術を学ぶ。	2通	45	3	○		△	○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーナー科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			犬舎実習	日常生活における犬のしつけ、健康管理、ケアなど	2 通	90	3			○	○		○		
○			飼育管理実習Ⅱ	連携する企業が保有する犬猫等の飼養保管等を行い、飼養技術や衛生管理能力の拡充を図る。	2 通	220	7			○	○		○		
○			訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス	基本服従訓練から遠隔操作など	2 通	120	4	△		○	○		○		○
○			訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス	まわれ、股くぐり歩行などの一芸項目を実際に教えていき、ドッグダンスの構成などショーテクニックを実践する	2 通	90	3	△		○	○		○		○
○			専科選択実習	しつけ教室、等	2 通	90	3	△		○	○	△	○		○
○			能力開発実習	災害救助犬育成、介助犬育成など	2 通	60	2	△		○	○	△	○		○
合計					28科目		1855単位時間(70単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2年以上在学し、総授業時数の3分の2以上の履修を前提に各授業科目の評価を受ける	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。